

令和2年度 奈良県立二階堂高等学校学校 学校評価計画表

教育方針		「磨き合い 共に輝け 二階堂」をスローガンに、「キャリアデザイン科(総合学科)」の特色を生かし、社会の中で自らが果たす役割や生き方を見つけ、地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成する。	
令和元年度の成果と課題		本年度の重点目標	具体的目標
キャリアデザイン科として、全ての教育活動に人生100年時代の視点を取り入れて地域を重視したキャリア教育を進めてきた。令和元年度も、地域社会とつながる実学教育を推進してきたが、より効果的な取組とするため、2年生の地域課題解決型研究の持ち方と二階堂フェスタの内容については、一部を改善し、より生徒の自主性を育てる教育となることが求められる。進路保障については、就職・進学ともに「ミスマッチを防いだ進路選択」を目標に一定の成果を見せている。進路先が決定した生徒にも就職後、入学後をも見据えた指導を行っており、今後の離職者、中途退学者の防止に成果を期待している。		(1)一人一人の個性と能力、可能性を伸ばすキャリア教育の推進	①DCSプロジェクト※を通して、実社会とつながった「深い学びに向かう力」を育成する。 (※DCSプロジェクト：実社会とつながった深い学びに向かう力の育成プロジェクト) ②Brush up Time (BUT)※を軸に基礎学力を充実させ、積極的な資格、検定の取得をすすめる。 (※Brush up Time (BUT)：朝の時間を利用した振り返り学習) ③「産業社会と人間」、「社会人基礎力」※を通して、キャリアプランニング能力を育成する。(※社会人基礎力：総合的な探究の時間) ④部活動や生徒会活動、学校行事を通して、主体性と協調性をもった生徒を育成する。
		(2)自他の生命を尊重する心と礼節を重んじる態度の育成	①時間とルールを守り、はじめある生活態度を育てる。 ②爽やかな挨拶、美しい言葉遣いと身だしなみ、マナーの向上に努める。 ③ボランティア活動を推進し、社会に貢献する意欲と責任ある態度を養う。 ④高等養護学校分教室との交流を通して、社会性、多様性を尊重する心を育む。
		(3)教職員一人一人が協力して教育力の向上を目指す学校運営	①学年、分掌、事務室が情報を共有し、チームとしての教育活動の推進を図る。 ②新学習指導要領の実施に向けた、新しい教育課程を創造する。 ③ICTを活用し、生徒の学習意欲を高める授業づくりを推進する。 ④地域や保護者との連携・協働により、コミュニティスクールの取組を推進する。 ⑤教育活動の充実と安全管理のため、施設・設備の整備を進める。
分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	
学習	学力の向上	・BUTや普通の授業の中で、基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。生徒アンケートにおいて「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」のGPA3.1以上。 ・資格・検定の積極的受検により能動的な学習習慣を身につける。各種検定受検数500名以上。	
	教科指導力の向上	・指導力の向上に向け、評価と指導の一体化、ICTを活用した授業づくりを進める。 ・生徒が主体的に取り組むことができる授業の実践。授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPA3.0以上。	
生活指導	規範意識の向上	・挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、粘り強く指導をすることによってルールやマナーを守れる素地をつくる。さらに積極的に挨拶が出来るように指導を続ける。 ・問題行動による指導件数について昨年度比10%減をめざす。	
	基本的生活習慣の確立	・時間を大切に指導を徹底し、はじめある行動を心がける。さらに遅刻指導をより具体化し、遅刻数について昨年度比10%減を目標とする。 ・学年集会等を利用して、服装・頭髪等の身だしなみについて学年間での不統一のない指導を展開する。	
	生徒理解と家庭との連携	・中学校訪問や生活支援カードで得た情報を集約し、学年当初の生徒指導に役立てる。 ・欠席・遅刻における家庭との連絡を徹底して、家庭との協同による指導を行い、卒業後の進路確立に役立つよう社会人基礎力を育成する。	
情操指導	読書週間の定着	・BUTの読書時間に役立てるお薦め本のリストを作成する。図書委員会活動を活発にする。(図書館イベントやお薦め本のリストやポスター作成を生徒主導で行う。)	
	文化行事の充実	・生徒からの意見を活かした文化鑑賞会の企画を行い、内容の充実を図る。	
	環境美化意識の向上	・クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。 ・年2回清掃用具点検を行い、清掃活動が円滑に行えるようにする。(点検率90%以上)	
	奉仕精神と勤労観の育成	・二階堂サポーターズクラブの活動を通して、ボランティア活動に積極的に参加する姿勢を育て、社会に役立つとはどういうことかを学ぶ。生徒会はその活動を推進するために協力する体制をつくる。 ・年間を通して各クラス1回の通学路清掃を実施する。	

分野	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標
健康管理	生徒の体力向上と健康維持	・新体力テストの校内平均で、3種目以上は奈良県平均まで引き上げる。 ・心身ともに自己管理を促し、保健室の利用回数を1000人以下にする。 ・感染症予防として、消毒液・手洗い用洗剤の補充を確実に実施する。
	食育の充実	・朝食の欠食率を各学年、10%減らす。 ・食育に関する保健便りを、年間6回発行する。
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	・サクセスセミナー出席率を80%以上とする。内容もさらに充実させ、進路実現に向けての意思決定と方策の実行をサポートし、ミスマッチを防いだ進路指導に努める。
	卒業後に要する知識・技能・態度の育成	・卒業後の新生活へのスムーズな移行への支援として、学校推薦による就職内定者や大学合格者に対して、定期的にセミナーを実施し、該当生徒100%の参加を目標とする。
地域・連携・保護者	学校関係者との連携	・PTA新聞を年2回発行する。総会、研修会、乗車マナー指導等のPTA活動への保護者の参加を促進する。（参加者5%増）
	学校評価制度の活用と充実	・各種アンケートを実施・分析して、学校改善に反映させる。（回収率90%以上）
	開かれた学校づくり	・体育大会・二階堂フェスタ等の学校行事に保護者の参加を促進する。（参加者5%増） ・学校ホームページの充実。
防災	安全教育・防災体制の充実	・年2回安全教育を実施し、避難訓練を行い防災教育の充実をはかる。また、定期的に安全点検を行う。
支援・教育・特別	生徒の人権尊重の意識の確立	・インクルーシブ教育の推進を図るため、高等養護学校分教室と連携し、人権講演会や人権HRを充実させる。 ・人権ホームルームや学年集会を通して、ネットモラル意識を高める取り組みを行う。
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	・個々の生徒の課題を受け止め、迅速かつ組織的に対応する。また毎学期スクールカウンセラーを講師とした研修会を実施する。
国際教育	国際理解教育の深化	・奈良県外国人教育研究会と連携をとり、生徒の多文化共生社会に対する意識を高める取り組みを行う。
研究	各種校内研修の実施	・特別支援教育の充実に向け、高等養護学校分教室との連携し、合同の校内研修会を実施する。 ・教科内および教科の枠を超えた授業公開・研究の実施（延べ参加人数昨年度比10%増）。
第一学年	基本的な生活習慣・規範意識の確立、進路を見据えた学習	・社会人基礎力の基盤として、身だしなみや挨拶、時間を守る、適切な言葉遣い等への意識を高めさせる。日常の声かけ・面談等を通して、生徒・保護者との信頼関係を構築する。 ・「産業社会と人間」の授業等を通じて、自己の進路について考える。日々の授業・BUTを大切に、ステップアップゼミ・進路補習等にも積極的に参加させる。
		・身だしなみや挨拶、適切な言葉遣いを自ら意識する姿勢をもたせる。時間を守る指導を徹底し、遅刻を減らす。（令和元年度第1学年比10%減）
第二学年	規範意識の向上 進路を見据えた学習	・授業・BUTを大切に、進学・就職ガイダンスや進路補習等に積極的に参加させる。
		・生徒の進路選択のための説明会や進路補習、面接指導等を充実させる。また、欠席や遅刻の総数を減らす。（令和元年度第2学年比10%減）
第三学年	将来のキャリアデザインを見据えた進路実現	・「自己PR力」や「協働する力」などの社会人基礎力を身に付けさせる。
		・月ごとの出退勤時刻の個人統計を各職員が見直すと共に、超過勤務が目立つ職員、健康不安のある職員に対して管理職が面談の上、指導と相談を行う（月1回定期的に行う）。 ・職員個々が週1回の定刻退勤日を設定し、所定の様式で管理職に申告する。申告通りに退勤できない職員には、管理職が適宜指導と相談を行う。
総合	教育活動全体の充実	保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPA3.5以上。